

令和7年度第2回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和7年度第2回清瀬市社会教育委員の会議が令和7年7月29日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和7年7月29日（火）午前10時から12時00分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-4（対面開催）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、齊藤副議長、渋谷委員、玉置委員

欠席委員 西田委員、永嶋委員、松山委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、西原係長、貫井主事、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、西田委員、永嶋委員、松山委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

（1）社会教育団体の補助金について

- ・清瀬市体育協会（活動の事業費、管理運営費）
- ・清瀬市文化協会

（2）不登校支援のネットワークづくりについて

（3）清瀬市生涯学習基本方針の策定について

- ・清瀬市の生涯学習についての現状と課題

3 報告等

(倉持議長)

定刻になったので令和7年度第2回社会教育委員の会議を始める。
それではまず、議題の1番目、社会教育団体の補助金について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは資料1をご覧ください。まず、今年度の清瀬市体育協会の補助金の関係についてご審議をお願いしたい。事務局から説明をさせていただくが、もし補足等があれば玉置委員よりご説明をいただきたい。

全体の活動費の中の事業費90万円と、各種大会やマスターズ大会への補助という形で30万円、スポーツフェスティバル事業関係の40万円を申請させていただいた。

(玉置委員)

体協からは3つの内容で申請を出させてもらっている。まず目的だが、令和7年度清瀬市体育協会運営事務費及び加盟団体に対しての生涯スポーツの普及と健全な発展のためということで、90万円を申請させてもらっている。

現在清瀬市の体育協会には20団体が加盟しており、事業実施の会員の相互技術の向上及び生涯スポーツの振興を図るとともに、清瀬市のスポーツ振興、生涯スポーツの発展に寄与するということで申請させてもらっている。

管理予算だが、市の補助金が90万円、体育協会負担金が75万4000円、合わせて165万4000円の事業予算で1年間の運営をしている。

支出に関しては、人件費、会議費、渉外費等があり、体協の場合はボランティアのスタッフが多いため、事務所に来る交通費や会議の旅費など、そのようなもので165万4000円の支出をさせてもらっている事業である。

事業内容については5月に総会を行ない、このような計画で東京都から補助金が出ている東京都のジュニアスポーツ振興事業とシニア振興事業というのがあり、その補助金を使って各連盟に活動していただいている。

次に清瀬市の事業として、マスターズ大会やスポーツフェスティバル、春季大会、秋季大会、市民大会などがある。

また事業費だが、清瀬市を代表する東京都のスポーツ大会があるのだが、こちらの選手派遣の補助金の申請が次のページに出ている。

その他に体協として、市町村の体協関係の研修会や、市の事業であるスーパードッジボール大会のサポートなどを行っている。清瀬市体育協会として、総会を5月24日に開催し、毎月第3水曜日にアミューで理事会をするなど、このような形で運営をしている。役員執行部会も毎月月初めに、理事会に向けた内容を議題として、体協の事務室で会議を行っている。選手派遣として、東京都スポーツ大会、市町村大会に参加していただいている。そちらの大会にも関わる経費として、市に補助金30万円を申請している。予算の内訳として、東京都スポーツ大会、市町村大会、マスターズ大会ということで30万円になっている。

3つ目が、マラソン大会に代わる清瀬市のスポーツ事業として、昨年初めて清瀬市民

スポーツフェスティバルを開催し、第2回もやろうということになった。その中で、より内容を詰め、清瀬市民の健康のための事業になっている。こちらは40万円の申請をさせていただいている。

内山サッカー場に人工芝のグラウンドが3面あり、主にサッカーでしか使っていないのだが、そのうちのA面を多目的広場として、清瀬市民スポーツフェスティバルをやった。澁谷市長にも来ていただき、子供たちと一緒に綱引きや大玉、玉入れなどをやった。次回はもっと走る競技や体力測定などを充実させ、やりたいと思っている。

これらの予算が会場費、保険料、事務用品費、看護師謝礼、交通警備費、消耗品費、会議費。イベント用品購入というところでは、昨年度は清瀬小学校から用具を貸していただき、運搬料のみでほぼ無料だった。民間業者から借りるとなった場合の予算や購入するとした場合の予算として10万円を計上している。合計で40万円の補助金申請となる。

今年はスポーツの日が10月13日の月曜日なので、こちらの日程で実施したいと思っている。8月の末から実行委員会を立ち上げて内容を詰めていくよう進めている。

以上が申請内容説明となる。よろしくお願いします。

(倉持議長)

では、今3つまとめて説明していただいたので、質問等があればお願いします。

最初の申請は協会全体の運営に関わるもので、人件費や渉外費以外のところに半分ぐらいの補助金を当てている。そして、2番目3番目で、事業の申請となっている。

(玉置委員)

1番2番に関しては例年継続で、スポーツフェスティバルは2年目の継続内容となっている。コロナ開けに初めて実施し好評だった。

この場所はサッカー場なので、普段興味の無い方は来ない場所。でも、清瀬市にはこんな場所もあるよという周知の意味も含めての会場となる。サッカー場としては人工芝が3面もあるということで、関東大会なども開催するサッカーの聖地的な場所で、東京都に3面も並んでいるグラウンドは、ここ清瀬しかない。準決勝や決勝などは駒沢に行ってしまうが、高校サッカーなどはベスト8ぐらいまではここでやる。高校生が来て、目の前にスタンドもあるので間近で応援できるといった整った環境になっている。このようなところが清瀬市にあるということを知っていただけると、地域資源の活用になる。野球場もあり、奥にはテニスコートも6面ある。先ほどの市町村大会なども来年度は清瀬市が会場提供することになっており、このような運動公園なども清瀬市にあることを知って欲しい。

(渋谷委員)

去年は何人ぐらい来たのか。

(玉置委員)

去年は280人ぐらい来た。一般家庭ではなく、体協の加盟団体へのアプローチだっ

たので、告知がなかなか上手くいかなかった。そのため、市報には出してはいるが、なるべく各学校にポスターなども配りたい。その辺りの進め方など、今年に関しては反省を踏まえて進めたいと思っている。500人ぐらい来てもらえればというような目標はあるが、会場までのアクセスが悪い。駐車場はあるが、駅から遠い。清瀬市なのだがほぼ新座みたいな場所。先程の高校サッカーの学生が来るのが新座駅からで、清瀬市からは来ない。清瀬市はここから旭が丘団地というバス停があるが、そこから1キロぐらいある。紹介する時は、最寄り駅は新座ですとなってしまふ。

少年サッカーのイベントの時は、西武バスがシャトルバスを出してくれたりしているが、本当に人数が増えてくるのであれば、そのようなところも今後は検討しないと集客はできないかなという課題はあるが、まずは継続しながら浸透させていく。

昔は体育の日に清瀬市マラソン大会があった。皆マラソン大会はこの日という認識があったので、それをこのようなスポーツフェスティバルにしたが、この事業が浸透していけば、市民が楽しみにしてくれるのではないかとと思っている。

(渋谷委員)

学校にポスターは貼ってあるか。

(玉置委員)

学校には貼っていない。学校に貼るには規制がある。

(渋谷委員)

これは駄目なのか。

(事務局)

教育委員会の後援があれば可能だ。教育企画課を通して後援を付けていただき、校長会などで周知いただければ問題ない。

(渋谷委員)

ポスターを1、2枚いただければ、9月の校長会などで紹介できる。よく正門の前などにも地域行事の時はポスターを貼っている。実績があるからやり易いのではないか。

あと、スポーツフェスティバルの部分でイベント用品購入10万円とあるが、前回は清瀬小学校から借りたとのこと。今後もし購入したら、それは体育協会の持ち物になる。体協から何か色々なものを各学校が借りたりすることが逆にあるかも知れない。

(玉置委員)

綱引きの綱も色々ある。遊べるような十字になっているものもあり、両端から引っ張るような色々なバージョンがあるので、お金があればそのようなものも買える。そのような定番なものではなく、学校にあるものとは違った、もっと遊べるようなものがあれば、学校へも貸し出しできる。

(倉持議長)

学校には定番のものはあるけれど、そのような時に貸し出してもらえれば、いつもと違うものなので、参加した子供がまたそれをやりたい、参加したいとなる。そのような派生があるのは良いこと。

(玉置委員)

去年も300円をいただき、暑さ対策の水と、参加賞のようなものを用意した。最後は抽選会のような感じで、清瀬市の人参ジャムや人参ジュースなど、清瀬の特産品が当たる抽選会をやった。それらを300円の中でやった。あとはスタッフのお弁当代など。

(倉持議長)

10月のイベントでも熱中症が心配となると、暑さ対策の費用も必要となるのか。それでは、3つまとめて承認ということではよろしいか。皆さん賛同とのことなので、3つまとめて承認とする。
では次に、文化協会をお願いする。

(事務局)

文化協会の申請目的として、清瀬市民文化祭に発表の場を提供し親睦と交流を深めたという目的で行っており、毎年11月に開催している。文化協会が主催となり、清瀬市が支援を行っている。今年度は第53回目となる。実績として、昨年度は52回目となり、2日間開催した。

参加団体数は文化協会に加盟している団体の17団体、一般公募で26団体、特別参加として、清瀬第五中学校吹奏楽部、清瀬高校ダンス部、清瀬市立保育園の計3団体が追加され、合計46団体の参加があった。

現在、文化協会の加盟団体が人手不足などといった事例もあり、加盟団体が少なくなっている。終了する団体もあるが、毎年一般公募で参加する団体もあり、若い世代の方々にも参加を働きかけ、文化協会に加盟していただき、今後の文化の発展に寄与していきたいとの意向を文化協会から聞いている。

次に今年度の補助金の申請について説明する。今年の文化祭は11月1日、2日の2日間で開催する予定となる。市からの補助金の予算額として61万8000円があり、文化協会の予算書では市からの補助金として、61万7700円が計上されている。今年度も引き続き、主に支出の部分で市民文化祭開催にかかる費用が計上されており、補助金の予算額は昨年度と同額の61万7700円となっている。

また、この53回目の一般公募の進捗状況として、7月14日に募集を締め切り、個人は7人、団体は14団体から応募をいただいた。昨年度より5団体ほど参加が減ったが、今は文化協会から各方面へお声掛けしている状況である。

以上で文化協会からの補助金の説明を終了とする。

(倉持議長)

それでは何かご質問等はあるか。

資料によると、今回は登録団体が16団体とあり、応募団体が14団体だから、昨年度より減ってきていることで運営としては大変な状況になってきている。この市民文化祭だけ参加する団体は、登録団体と同じぐらいの数になっている状況である。

(事務局)

文化協会としては、そこから加盟に繋がっていきたいと聞いている。

(倉持議長)

市民文化祭を盛り上げることも大事だが、会としての運営も、そこから上手く繋がっていききたいという思いがある。

(事務局)

団体自体も高齢化になってきている為、なるべく若い世代の方にも加盟してもらいたいと思い、今回文化祭もなるべく若い方の参加を呼びかけているところだ。

(倉持議長)

市民文化祭で発表する参加費として、1人500円を徴収している。当日は発表しない人も参加されると思うが、盛り上がり具合はどのような様子か。

(事務局)

人数のカウントはしていない為、参加者数は把握していないが、去年私が少し回って見たところ、舞台関係では特別参加枠で、第五中学校の吹奏楽部にご出演いただいたので、その保護者やお知り合いの方といった関係者が来られており、ついだというわけではないが、別の催し物なども見て行ってくださったというところでは、波及効果はあると感じた。

展示部門の方もアミューでやっており、駅前で利便性が高いので、多くの方がコンスタントに訪れてくださっている印象があった。良かったのは、実際に出品者がその場にいるので、こういう作品はどのように作っているのかというような、そのような対話が生まれているのは良い形だという印象を受けた。

今年の一般枠はリピーターだけではなく、全く新しい方も手を挙げてきてくださっていると聞いている。引き続き、前年度にご出演いただいた第五中学校の吹奏楽部と、清瀬高校ダンス部にもお声掛けをして、参加いただける予定となっている。

(齊藤副議長)

以前より、文化協会の方が発表会の時に椅子など重いものを運ぶのに、少し高齢化しているので大変だったという声があった。そのことについては何か新しいアイデアなどはあったのか。

(事務局)

今年度、明治薬科大学のボランティアサークルのミュージストリームという方々に協力

をお願いし、荷物運びなどをやりますといったお声をいただいている。文化協会から要請があり次第、少しご協力いただこうかと思っている。

(倉持議長)

他に何かご質問はあるか。音響増員費とは何か。

(事務局)

音響設備を扱う専門の方の person 費となる。けやきホールには指定管理者の委託業者として、舞台設備を専門に扱う業者が入っているが、この方たちだけでは賄いきれない音響関係のところの委託費のようなイメージだと思っている。

(渋谷委員)

文化祭は一般参加費が500円。それが少しネックになって参加する団体がいるとかいないとか、関係はあるのか。年会費よりも高い。

(倉持議長)

逆に、会員は年会費を払っているから、その200円で発表ができるのでお得だ。発表には音響など色々と経費がかかっているからということで500円をいただいているが、会員になったら半額の200円で発表ができるというインセンティブがある。来年も発表をされるのであればお得だ。自分たちで発表をしようと思ったら絶対にできない金額なので、そういう意味では、会場を借りたり広報をしたり、音響や照明などを準備しお客さんをお呼びなど頑張ってください、団体が協会に入ってもらえると良いのだが。

(事務局)

この一般参加費もかなり収入の大きな部分を占めているので、やはり多くの人に参加してもらいたいという気持ちがある。

(倉持議長)

では、文化協会の補助金は承認ということでよろしいか。よろしく願います。

次は議題の2、不登校支援のネットワークづくりについて事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

兼ねてより検討している不登校支援ネットワーク・フォーラムについて、前回はまだ倉持議長に申請いただいた東京学芸大学の連携事業の助成金の下りるかどうか分からない段階だったが、6月の中旬に助成が決定し準備を進めている。皆様に登壇者候補のアイディア出しをお願いし、事務局で候補者に打診をさせていただいたところ、教育指導課の統括指導主事の宮野担当課長が、学校教育としての不登校支援、教育委員会としての不登校支援として、どのようなものを行っているか、イントロダクションのような

感じでお話していただけることになった。

そこで、学校や教育委員会ではこのような取り組みをしているので、社会教育の面から見たらどのような事例があり、どのようなことができるだろうかを考えることを、今回のテーマにしたいと思っている。そこを踏まえて皆様のご意見もいただき、二人の方にご登壇いただけることになった。一組目がNPO法人清瀬こども劇場様。

もう一方が齊藤副議長からご紹介いただいた、日本社会事業大学の有村教授。有村教授は児童福祉のご専門であられるが、清瀬第四中学校で教室外の不登校支援をゼミとして取り組んで、ご協力いただいている。その事例を踏まえて、児童福祉の視点も交えて、不登校支援のことについてお話しいただけることをご快諾いただいた。8月23日土曜日の午後、清瀬けやきホールセミナーハウスで開催したい。

今日検討したいのが、不登校支援ネットワーク・フォーラムという事業名があるが、やはりテーマやサブタイトルのようなものを検討したい。

既に概要については、それぞれ登壇していただける方にはお話しをしているが、テーマを設定させていただき、改めて演題などを決めていただきたいと思う。

また、前回の4ブロック研修会の際の資料を参考とし、当日の配置図やタイムスケジュールの素案を作成したので、そちらの内容についても見ていただきたい。

まず、テーマを事務局案として4つほど挙げさせていただいた。「見守る力、つながる力、～支援者同士の対話から生まれるヒント～」、「知る、語る、つながる、～不登校支援の今とこれから～」、「つながる、広がる、支え合う、～地域でつくる子どもの居場所～」、「ひとりじゃない、ひとつになれる、～不登校支援の実践とネットワーク～」という、事務局からは4案を出させていただいた。

(倉持議長)

開催までに1ヶ月を切っているが、会議がどうしても今日のタイミングなので、今日できるだけ決めて即座に広報に入りたい。運営を除いて、定員が上限40人なので、市報などで大々的に周知するのではなく、教育関係者、コミュニティスクール関係者等、実際に支援に関わられている方や、自分の子供が関わっている方、そのようなところに周知すれば、40人は集まるのではないかなと思う。

学芸大から補助金を貰うにあたって、学生の参加というのが一応義務づけられている。私のゼミ生には、この日は開けておいて欲しいと伝えてある。何人かは手伝いに来るはず。皆さんの関係者にもお声掛けいただいて登壇者は決まったが、細々したものはまだ決まっていない。まずは今回のフォーラムのテーマということで、事務局より4つ挙げてもらった。

表題は一応、清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムだけれど、それでは硬いから、主題と副題のように、イベントのタイトル名を付けた方が良い。

入っていたら良いキーワードとして、地域や居場所、子供、つながり、連携、協働、というキーワードが入っていると良いと思っていたが、事務局からご提案いただいたものには大体が入っていた。ただ、不登校支援の一般論についてこうあるべきだ、のような議論というよりは、実際に不登校支援に携わっている方々や、子供の居場所づくりに携わっている方々、そのようなことが必要だと思っておられる方々が集まり、お互いに

やれることをやる中で、子供にとって色々な居場所を作り、情報共有ができるような関係性を作っていこうという趣旨だった。そのニュアンスが伝わるようなタイトルが良いと思うが、皆さんいかが。事務局案のたたき台を基に考えたい。

(齊藤副議長)

事務局案の3つ目、「広がる、つながる、支えあう ～地域で作る子どもの居場所～」だが、こちらはキーワードが全て入っている。

(渋谷委員)

最近はA I が色々と考えてくれるので、聞いてみるのもいいかも知れない。ほっとできる場所、きちんと見つかる与え合う地域の力など、様々なワードを提案してくれる。

(倉持議長)

今回は学校教育の方で来てくださるから、何か地域というところの中に、学校の外の地域だけではなく、学校を含んだ地域というニュアンスが入ると良い。他職種連携というワードは硬い感じがする。あまり学校が、とか、地域が、など言わない方が良いのか。どちらも当事者で、学校は学校で必要な支援をしてくれているし、地域は地域、子供の様々な状況に合わせて、そのような場がたくさんあったり、情報を共有していければ子供たちにとっても安心できる場所が増えるということ。地域にとっても関わるということが、また地域の人のやりがいや生き甲斐、地域参加につながる。そのようなところが共有できると良い。このようなことが後半のグループディスカッションで話されると良い。

(渋谷委員)

A I に、一人一人が当事者性を意識するような、意識を高めていくようなテーマに少し変えてもらおうと、「私から始まる子供の未来、地域で育むみんなの居場所」、「できることを持ち寄ろう、不登校支援、私たちにできる一歩」、「もし自分の子供だったら？不登校支援を自分事にする対話の場」、「居場所はみんなで作る。不登校支援、地域で支え合う主人公になろう」といったワードが提案された。いかがか。

(倉持議長)

事務局の3番目のテーマと、今のA I を組み合わせて、「地域で育む子どもの居場所」が良い。作って育てていくというイメージがあり、副題で不登校と言わなくても、居場所というワードで表現されている。

玉置委員はご経験を踏まえていかがか。

(玉置委員)

私も事務局の3番目「つながる、広がる、支え合う」が良いと思ったが、A I で提案された「ほっとできる場所」というのが、どこかのCM「僕のほっとステーション」ではないが、皆さんの関心を引くような表現で、より伝わるのではないかと思う。

(倉持議長)

「地域で育むホッとできる子どもの居場所」、「ホッとできる場所、地域で育むつながりづくり」、「ホッとできる場所、地域で育む安心の輪」などが出てきたが、微妙に少しずつ違う。皆さんいかがか。

(齊藤副議長)

不登校支援の今回は、ネットワークというのを重要としているので、場所のつながりというワードは入っている方が良い。

(倉持議長)

主題が「子どもがホッとできる場所」、副題が「地域で育むつながりづくり」。上に硬い「不登校支援フォーラム」と入っているので、伝わるのではないかと思う。

では、それをメインタイトルにする。40人来たとして、5グループだが、委員の皆さんは23日土曜日の午後、ご出席可能か。

(事務局)

永嶋委員が難しいと聞いている。

(倉持議長)

今日お休みの松山委員と西田委員にもご確認いただきたい。その他の委員は大丈夫だ。私たちは後半のグループワークの中で、ファシリテーターとして進行役をやる。グループディスカッションの(事例検討)となっているが、これは何か。

(事務局)

去年もそうだったと思うが、事例紹介など、この発表を踏まえてディスカッションのテーマというものを提示させていただいて、このことについて話し合うといった流れだったかと思う。今ここでテーマが決まった。

どのようなことをお話しただけかというのは、先程少しご紹介した通りではあるが、それを踏まえてグループディスカッションをどのように設定するかというところだ。

(倉持議長)

グループディスカッションの時間が30分。1グループが40人だとすると、1グループが8人。そこに私たちが入る。自己紹介をしながら、自分が不登校支援や子供の居場所づくりで何かやっていることとか、今やっていなくても、どういう関心を持っているか、というので自己紹介をしてもらい、一人3分ぐらい。一人3分話したらすぐに終わってしまう。

(事務局)

去年は意外と早く進んだ。登壇者が話を割とコンパクトにまとめてくださった。今年

の登壇者の持ち時間は15分程度を予定している。質疑応答をどれくらい入れるかにもよると思うが、予定として質疑応答の時間を少し長めに取っている。

(倉持議長)

質疑応答はどれくらい時間がかかるか。去年はあまり質問が出ず早めに進んだため、グループディスカッションの時間を結果として多めに取れた。後半に登壇者もグループに入り皆で話すので、まとめて3人ご報告いただいてから、質疑応答の時間を5分か10分取る。グループで話した後でなど、何か質問したいことが出てくるかも知れない。終わりのところで時間を取っておけば良いか。

発表が14時30分までで、14時40分までが質疑応答、10分休憩を取り、14時50分から15時30分までがグループワーク。グループワークでどのようなことを話したかを伺い、最後にもう一度、登壇者から一言ずついただく。もし質問が出れば質問に答えていただき、登壇者の感想を話してもらう。最後の時間に少し余裕を持たせておいた方が、進行上は安心。

司会と閉会の言葉を誰がやるか決めたい。閉会の言葉は主催者挨拶だから議長がする。登壇者には15分ぐらいで話して欲しいとお願いする。事例なので、基本的には、どのようなことをして子供の居場所づくりや不登校支援でどのようなことをなさっているかなどを話していただき、有村先生については無理に児童福祉のお話しをしてもらわなくても、ゼミの活動そのものが多分皆さん興味津々だと思うので、それを話していただいて、やっていく中で課題だと思っていることや、これからこのようなことをやりたいと思っているなど、登壇者共通だが、そのようなことを話していただくと、後半の議論に結びつき易いと思う。

そして、後半のグループディスカッションのテーマはどうするか。自己紹介を兼ねて、不登校支援に関わるどのような支援や実践をしているか、ということなどを話していただいた上で、ネットワークづくりにつながるように持っていきたい。

(玉置委員)

フォーラムの参加は事前に申し込みがあるので、ある程度どのような方々が来られるのか分かるのか。

(事務局)

申し込み時にご所属のようなものをお伺いしたいと思っている。グループワークの席次は偏らないよう、様々な職種の方を上手くばらけるようにしたいと考えている。学生がどれだけ参加するのかというのもあるが、各グループには学生も入れたい。

(倉持議長)

このフォーラムの呼びかけというところで、市内の取り組み事例を紹介しながら、課題やニーズを共有し、情報や意見交換を通じて、お互いどんなことをやっているのか、どのような関心を持っているのかなど、子供に近い立場の人たちは、今どのようなニーズがあるのか、どのような子供たちの実態があるのかなど。

逆に、地域に近い人たちからは、地域でこういうことをやれる人がいる、やっている、何となくそこからそのような人たちが情報を共有し合う場があると良い。まずはこのフォーラム自体が、そのような情報を共有できる場になると良い。情報交換ができれば十分に目的は達成している。

(事務局)

去年のテーマが地域の担い手育成や担い手づくりのようなことだった。事例や経験などを踏まえて、多世代が参加する担い手育成には何が大事か、必要か、などについて意見交換をしていただいた。皆様の様々なご意見やご経験などをお話いただくのも、広がりすぎてしまうかも知れないので、このようなことを中心に話してくださいという目安はあると良いと思っている。時間も限られているので。

(倉持議長)

例えば今、清瀬の不登校支援に必要なことは何か、どのようなニーズや課題があるのかといったことや、清瀬の不登校支援の子供の居場所づくりを広げていくためには何が必要かといったことか。

(事務局)

そうだ。不登校だけではなく、子供の居場所づくりそのものが社会的にも課題になってきている。

(倉持議長)

では、清瀬で子供の居場所づくりを広めていくために何が必要か。広げていくために、どのようなニーズや課題があるか。そのような感じで後半を進めてもらう。

次に役割だが、司会と終わりの挨拶、グループワークのファシリテーターなど、それぐらいか。では今日いるメンバーで立候補、自薦他薦も含めていかがか。

司会は質疑応答のところで調整が必要かも知れないが、昨年同様に玉置委員にお願いしたい。終わりの言葉は学校の立場から渋谷委員にお願いしたい。

(事務局)

司会原稿などのサポートはさせていただく。広報はこちらのチラシにテーマなどを新たに掲載し、完成版に近づけていこうと思っている。今、学校支援本部やCS、校長先生方など、そのようなところで広報ができるかと考えている。申し込みについてはメールで周知し、申し込みにはL o g o フォームを使う予定だ。

学生の参加には、永嶋委員や倉持議長、有村先生にもご協力いただきたい。

(倉持議長)

以前、居場所づくりに取り組んでいる団体リストを作っていたが、あのリストに載っているような団体には、ぜひお声掛けいただきたい。目標は40人で、実数は30人ぐらいが良いか。申請書には学生が関わることが大事だと書いてあったので、受

付の手伝いや、ボランティア、記録係として関わると良い。2、3人ぐらいは少し優先枠を取っておいてもらえると有り難い。地元の日本社会事業大学の学生にもご協力いただけると良い。

(渋谷委員)

社事大の学生には、教室に入れない子の見守りや、相手をしてくれたりなど、関わってもらっている。

(倉持議長)

地域の方や学校の方が、支援している大学生と一緒に間近で話すというのも良いと思う。多すぎず、少なすぎずのほど良いところで、お盆前には宣伝ができると良い。

では、これをお願いします。

次は清瀬市生涯学習基本方針について、事務局よりお願いします。

(事務局)

清瀬市生涯学習基本方針だが、前回の続きのような形になっており、今回も清瀬市の生涯学習についての現状と課題について協議、意見交換などができればと思っている。

今回の9月30日には、課題整理と施策の方向性の整理まで進めば良いというところで計画をしていた。

倉持議長には長期総合計画で関わっていただいて、齊藤副議長と松山委員には教育委員会のマスタープランでご協力いただいている。昨日は丁度、教育マスタープランの検討委員会の1回目の会議があったところで、まだ素案の段階。生涯学習施策の柱の方向性が出されている段階で、これから肉付けをしていくという方向。まず前回も申し上げたが、長期総合計画や教育マスタープランの策定と並行して、こちらを進めていくというような形で考えている。

(倉持議長)

調整は上位計画ができた後にやれば良いので、もし今、皆さんそれぞれのお立場やご関心から、学びに関することや課題、こういうことを盛り込んでいったほうが良いのではないかというようなことを、色々とお話しいただければと思う。

先ほど体育協会が施設の有効活用という話が出たが、それぞれ皆さんのご活動分野が学校や学校支援、スポーツなど、色々違うと思うので、この辺りが少し課題かな、この辺りをもっと力を入れた方が良いのではないかという物でも、人でも、事業でも、活動でも、お金のことで、その辺りをお話しいただくと有り難い。市外の私からすると、まず市の中の話をお聞かせたらと思っている。

先ほど文化協会の話も少し出ていたが、文化祭については他市の話聞いても、やはり文化祭は結構難しい。高齢化や団体数が減っているということで、どの自治体も同じ悩みを持っている。コロナがきっかけで、参加人数や運営する側がもうコロナ前に戻らないというのを良く聞く。従来活動されていた方や団体が、今までメイン層を担っていたが、コロナがきっかけで、新しい団体がコロナ前のように動かないというような話

も聞く。形態やニーズ、入り方が変わってきているのかも知れない。

ただ、文化祭や体育祭など、このようなフェスティバル自体は学習成果を発表したり、新しい方が参加したりと、きっかけづくりとしては継続した価値はあると思うが、在り方そのものを見直していかないといけないのかも知れない。

（事務局）

老人クラブを担当していたが、実は老人クラブの中でも高齢化が進んでいた。クラブに入ってもらうために色々と工夫はしていたが、60代でもまだ仕事をしている人が多いので、なかなかそのような場に行けないとの声をよく聞いていた。他には、団体などに属すると役員をやられるからなど、もしかすると、参加はしたいが、何か別の役目を課されることに抵抗があるという方などは参加団体にもいると思う。文化祭でサークルに属さず個人でも参加ができるというのは、一つ間口を広げる上ではそのような方法もあるのかと感じていた。

ただ、仲間づくりも大事だということはお伝えしている。

（倉持議長）

ずっと個人で活動するというよりは、やはりそこをきっかけに知り合いができて、繋がりができて、その繋がりが段々と広がっていくこともある。役員が負担だと言い、地域の活動が担えなくなっているのので、自分からこのような役割が必要だとか、やってみようというようになれば一番良いのだが。

自分の楽しみや生き甲斐になり、何か役割を担っていこうということに繋がり、それがまた良いモチベーションになり、良い循環になっていくと良いと思う。押しつけられたり、前の通りにやれと言われたりすると確かにしんどいけれど、そのような役割も担当していただきながら、在り方も変えていただけるようになってくれると良い。それこそ、高齢者と言っても高齢者の考え方が今は若い。70歳ぐらいまでは皆さん働いておられる方も多い。地域活動の主要な担い手でもあるから、地域に目を向けていただけると嬉しいことだ。そこには学びが介在すると思っている。

清瀬には、長く住んでおられる方が多いのか。それとも流入流出というか、引っ越してくる方が多いのか。

（事務局）

地域によって違う。線路から北側は元々農村地帯なので、代々住まわれている方が多い。川沿いの団地などは外から入ってきた方が多い。そこでコミュニティが形成されているようだ。

南側は昭和に入ってから切り開かれてきたようなところなので、そちらは3世代目ぐらいの方もいるとは思いますが、比較的新しく入ってきた方たちという印象がある。

（倉持議長）

それこそ去年やったフォーラムでは、登壇者を探した時に、地域活動と居場所づくりをやっておられる方が南側に多かった。この辺の活動が活発なのだというような話に

なった記憶があるが、北側はどうだろうという話になった。それで、この間もちょうど別の市の第3ブロック研修会に来られていた委員が清瀬の話を覚えていて、子供の頃ここで育ったり、子育てでお世話になったりしたから、今度は自分が担い手になろうと思って支援者をやられている、といった話がとても印象的だったと仰っていた。あれがまさに循環なのではないかというようなことを仰っていた。

ただ、活発な地域とそうではない地域があるのだとしたら、良い事例を広げていくとか、まずはノウハウから学んでいくなど、地域の特性を活かして、外部から引っ越して来られた方にも清瀬の良さを知ってもらいたい。

(齊藤副議長)

私は学校支援に関わっているが、コミュニティスクールのような新しいものが入ってくることで、関わる方たちは大体顔見知りなのだが、また新しい協議体ができることで、自分たちが関わっている学校で、どのようにしたら地域の方をそのような学校を核とした活動に入っただけなのか、コミュニティスクールだからこそ、またより深く皆で考える場になっていると感じている。

今までは、地域の団体や円卓会議など色々あるが、コミュニティスクールというところで、また一歩進んだと感じている。地域の方と学校と、また地域を盛り上げていこうという動きになってきている。

(倉持議長)

ただ学校を支援するだけではなく、地域も活性化するために、コミュニティスクールという単位が学校を軸にして、地域ということも感じやすいエリア感がある。関わる人を増やしたり、繋げたりしていくのも生涯学習の役割だと思っている。

(玉置委員)

毎度同じ話なのだが、今回の文化祭と体育の話があったが、共存をしていくためにも、やはり清瀬として、何か一大イベントのようなものを清瀬がやっているということを示したい。例えば、ギネスに挑戦ではないが、何かそのようなものがあり、イベントで大縄をやって、何人飛べるかというような、何かそのような市民全体で清瀬を盛り上げるイベントをやってはどうか。人を集めた中で、文化祭事業もあり、各スポーツ団体のこのような事業もあるが、ギネスに挑戦とか、何々を挑戦のような、清瀬を盛り上げるようなものを何か一つ企画して、イベントを作るのも一つの案だと思う。

ジャンルを分けるのではなく、まず皆で何か一つのことをやろうと人を集め、そこに来ると舞台をやっているとか、作品が見られるとか、スポーツ体験ができるとか、それを入り口に横展開していくという流れで、何か一つ目玉になるイベントを作ってやるのが良い。

清瀬は大きな施設が無いので、実際皆で集まろうとなると遠い。線路を挟んで北と南となるとやはり違う。駅近の人からしたらもう全然遠いエリアだという地域もあるが、中央公園一帯が整備されれば、そこに向けてイベントをやればいいし、場所があれば音楽フェスのような感じでやれば良いのだが、騒音問題で賑やか系は絶対に駄目だと思

う。

ただ、音楽はけやきホールでやってもらうなど、色々と開催場所を分けてやり、清瀬フェス期間と題して一週間、様々な場所でやって、皆で挑戦のようなものは一日を設けて開催し、スタンプラリーなどもやれば、様々な施設を知る事ができるし、施設を全部回るような仕組みを作っておいて市を盛り上げていく。そこから、市の持っている課題をどんどん吸い上げていく。

先程エリアの話があったが、地域でやはり差がある。新しく戸建てで入ってくる方もいるが、マンションが建たないので、清瀬は人口が増えない。今子供がとても減っている。サッカーや野球の選手人口が減っていてチームにならない。

(倉持議長)

都内で戸建てが持てるということは、長く住む方がおられるということでもある。地域特性はありそうだ。

(事務局)

清瀬は畑を手放したという時に、そのような開発が入って家が増えるという傾向がある。人口は微増といった感じだ。

(倉持議長)

小平はマンションが一気に建って、それに合わせて子供の数がぐっと増え、学童が溢れてしまうといった状況に、一瞬だがなってしまうこともある。

(事務局)

清瀬も学童のニーズは高まってきている。共働き世帯が増えているので、子供の数が全体数増えているわけではないが、ニーズは今とても高まっている。

(倉持議長)

やはり今回のテーマでもある子供の居場所はとても大事だ。

(事務局)

中央公園が新しく再整備されるので、令和8年度に完成すると思うが、にぎわいの場の創出や、人が集まれるような場所として機能していくことを検討している。

(玉置委員)

元々陸上記録会もやっていたが、看護大でスポーツフェスティバルをやりたい。

(渋谷委員)

内山運動公園などは私の学校からも近いので、スポーツフェスティバルの案内状やポスターなどがある際は協力したい。地域の高齢者の体力テストなどはやっている。体育館で地域の方々が主催になり、血管年齢の測定など色々やっている。ポスターなどが

色々であれば、うちの地域の方々もたくさん参加すると思う。川まつりのイベントなどにも、私の小学校の子供たちがたくさん参加している。

また、学校の中で地域の方がやってくれる子供まつりにもたくさん来てくれるから、やはり周知をするのが良いと思う。

それから、学校の施設開放は野球、サッカー、バレーボールなど、スポーツ系が多い。まなびすとを見ていると、文化系には学校の地域で活動している団体も掲載されていた。それなら学校の施設の方が安いから使っていただいて、地域の方々に学校に足を運んでもらい、そういう方々を今度はゲストティーチャーに呼んで、子供たちの絵手紙や茶道などの学習にも活用できるのかなと思った。学校の子供たちが登校している時間は使えないが、それ以外の時間帯で学校の施設も利用できるか、一度学校と相談してみてくださいというような案内ができると良い。そうしたら地域の方々が学校に来て、今度は学校支援本部の方が色々なボランティアにご協力できますかと聞ける。様々な形で出会え、協力し合えるのかなと思う。

(倉持議長)

学校施設の開放や、市内施設の有効活用の話、学校と地域の連携協働のような部分、広報など。生涯学習情報が色々と目に入る形であれば、健康診断にしろスポーツ測定にしろ、そのようなことももっと連携をうまくやれば、様々な方が参加するきっかけづくりとして有効だと思う。

(齊藤副議長)

先日都市社連協の理事会に行ってきた。会場は小金井市もえぎホール。令和7年度の役員や理事名簿の確認などについて話があった。こちらは承認ということになり、改めて何か議題があったということはなかったが、令和7年度はこのような進みますということでした。

(倉持議長)

理事会へのご出席ありがとうございました。

その他報告はよろしいか。

それでは、次回の会議は9月30日だが、その前に清瀬市不登校支援ネットワークがあるのでよろしくお願いいたします。

それでは、これで令和7年度第2回清瀬市社会教育委員の会議を終了する。